

コリント

第二

⑤

「主イエスの命に
呑み込まれよう」

コリント人への手紙Ⅱ 5章 肉体と復活の栄光の体

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 世の肉体と復活の体 1～9 節
- II. キリストの御座の裁き 10～12 節
- III. キリストの愛に捕らえられて 13～21 節
- IV. まとめと適用
死んだ者として新しい命を生きる



コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

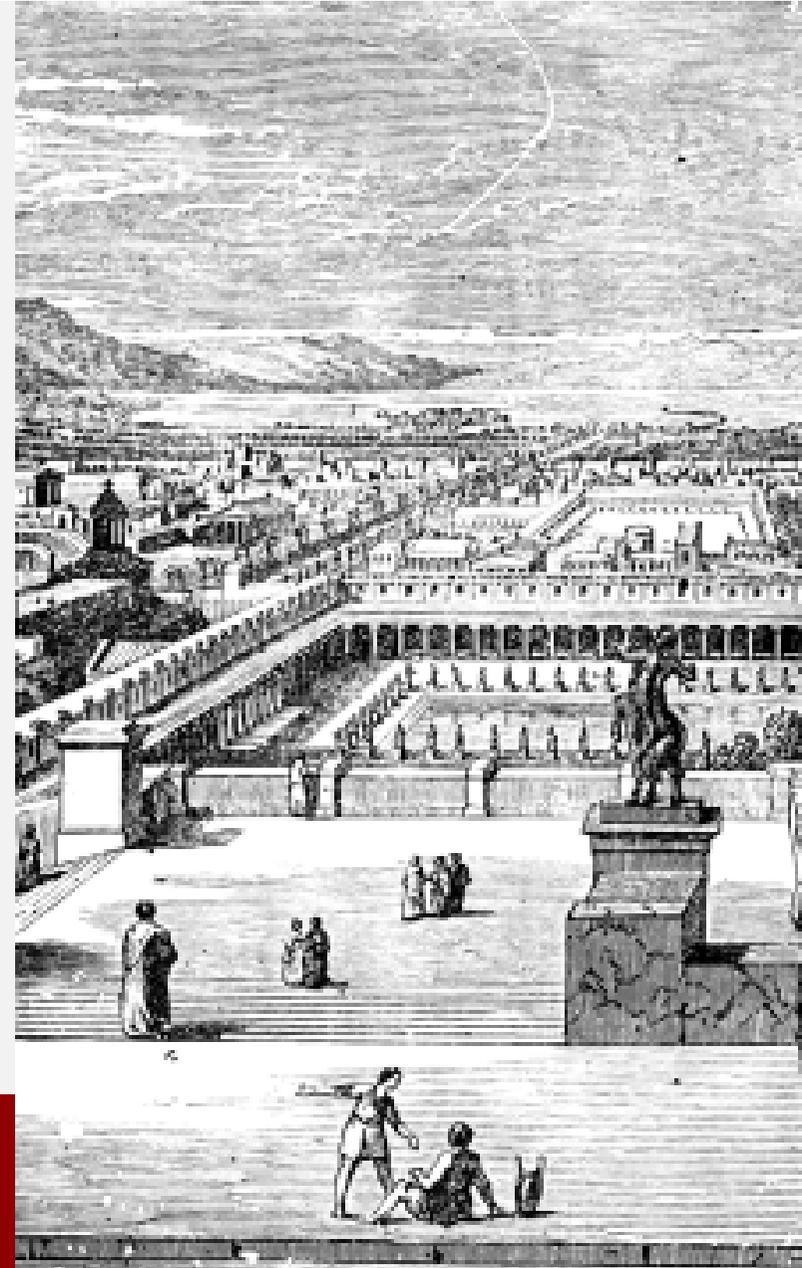
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



【コリントとコリント教会】

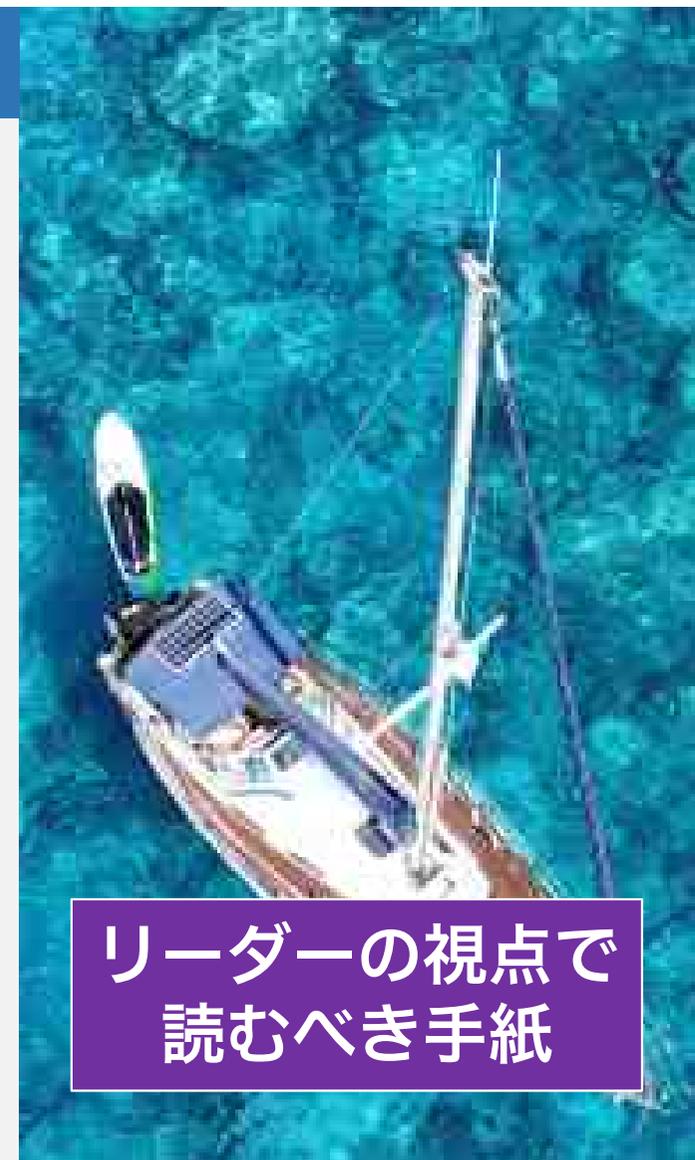
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう

パウロの手紙は分かりづらい？

ペテロの手紙第二3:16 その手紙でパウロは、ほかのすべての手紙でもしているように、このことについて語っています。その中には理解しにくいところがあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所と同様、それらを曲解して、自分自身に滅びを招きます。

- ペテロも認識。パウロの手紙の分かりづらさ。
 - 表現上のこと。弁論術、皮肉、ひねり…。
 - 代名詞が多い。突然、挿入が入る…。
- 記すのは**信仰の基本**。堅く主の真理の上にある。
 - **基本**を確認しながら読めば、混乱しない。

曲解するのは
読み手の責任

何を指すのか
確認しよう!!

信仰の基本は
絶対ふれません



I. 世の肉体と復活の体

Ⅱコリント5章1～9節

【復活の体】 II コリ5:1

たとえ私たちの地上の住まいである幕屋*が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まい*があることを、私たちは知っています。

*肉体。地上の物質でできた地上の体。

*復活の栄光の体。天の物質でできた天の体。

■福音を信じたクリスチャンには、神の国で**永遠の復活の体**が与えられる希望がある。



【復活の体の約束】 II コリ5:2~3

私たちはこの幕屋*にあってうめき、天から与えられる住まい*を着たいと切望しています。

その幕屋*を脱いだとしても、私たちは裸の状態*でいることはありません。

*滅び行く地上の体。肉体。

*神の国で与えられる永遠の復活の栄光の体

*肉体を失った霊だけの状態

➔パラダイスでの一時的な状態であり、
携拳の時に復活の体を与えられる。



【世の信仰者のうめき】 II コリ 5:4

確かにこの幕屋*のうちにいる間、私たちは重荷を負ってうめいています。それは、この幕*屋を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのもの*が、いのちによって呑み込まれる*ために、天からの住まいを上に着たいからです。

*肉体

*アダム以来の罪と死の内にあるすべての人間

*栄光の主イエスの命によって呑み込まれる

= 天からの住まいを上に着る

十字架で死んで復活された、栄光の主イエスの命に呑み込まれよう!!



【主から離れている私たち】 Ⅱコリ5:5～6

そうなるのに*ふさわしく私たちを整えてくださったのは、神です。神はその保証として御霊*を下さいました。

ですから、私たちはいつも心強いのです。ただし、肉体を住まいとしている間は、私たちは主から離れている*ということも知っています。

*復活の栄光の体を与えられる

*信者に内住する聖霊が、永遠の救いの保証

*永遠の救い。復活は保証されているが、
肉体は主から離れたまま。➡だから死ぬ。



【信仰の歩みの中で】 Ⅱコリ5:7~8

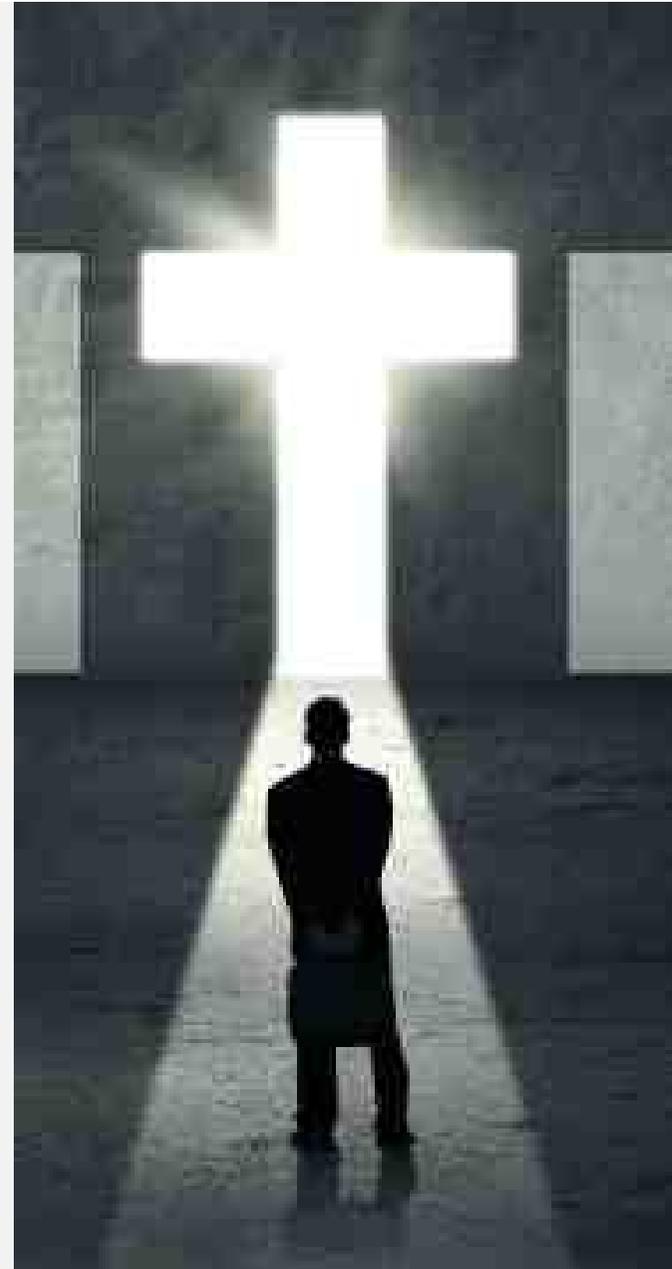
私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます*。私たちは心強いのですが*、むしろ肉体を離れて、主のみもとに住むほうがよいと思っています*。

*新生も復活の約束も、目には見えない希望。

「ヘブル 11:1 信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

*死の危険にあっても復活が約束されている!!

*もちろん永遠の御国に住むことがよいこと。



【信仰者の心からの願い】 II コリ 5:9

そういうわけで*、肉体を住まいとしていても、
肉体を離れていても、**私たちが心から願うのは、
主に喜ばれること***です。

*死ぬべき体で神から離れて生きていても、
将来の栄光を聖霊に保証されているのだから、
生きようと死のうと、もはや問題ではない!!

*信者が心から願うべきは、**主に喜ばれること。**

■求めるべきは自分の願いではなく、**主の願い。**

主が喜ばれる、私のなすべき使命とは何だろうか？





Ⅱ. キリストの御座の裁き

Ⅱコリント5章10～12節

【キリストの御座の裁き】 II コリ5:10

私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ
肉体においてした行いに応じて報いを受けるた
めに、**キリストのさばきの座***の前に現れな
なければならないのです。

*キリストの御座の裁き

…携拳の後、信者が受ける裁き。

地上の働きに応じて報酬が決まる。

■主の目に叶う働きを残せなかったため、火事
で焼け出されたように裸で御国に入る者も。

(I コリ3:10~15)



【パウロの望み】 II コリ5:11

そのため*、主を恐れることを知っている私たちは、人々を説得しようとしています*。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかしそれが、あなたがたの良心にも明らかになる*ことが、私の望みです。

*コリントの人々の過ちを説得しようとしているのは、人々が主の報酬を得られるため。

*パウロたちの働きが、主に認められていることをコリントの人々が知り、コリントの人々自身も主に働きを認められるようになること。



【応じられるように】 II コリ5:12

私たちは、またしてもあなたがたに自分を推薦しているのではありません。むしろ、あなたがたに私たちのことを誇る機会を与え、心ではなくうわべを誇る人たち*に応じられるようにしたいのです。

*実質を伴わない形ばかりの幼子の信仰者たち。

➔コリント教会内での影響力は持っていた。

■ 現状に心痛めるコリントの信者たちもいた。

パウロは彼らに、問題者に対応できる知恵を与えようと、この手紙を書いている。





Ⅲ. キリストの愛に捕らえられて Ⅱコリント5章13～21節

【神のため あなたがたのため】 II コリ5:13

私たちが正気でない*とすれば、それは神のためであり、正気である*とすれば、それはあなたがたのためです。

*神のためであれば、狂ったと言われようがかまわない。あらん限りの力を注ぐ。

*それがコリントの兄弟姉妹のためなら、たとえ冷たいと言われても、冷静に対応する。



【キリストの愛に捕らえられて】 Ⅱ コリ 5:14

というのは*、キリストの愛が私たちを捕らえているからです。私たちはこう考えました。一人の人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである、と。

* 狂ったように激しく主のために働くのも、冷たく思われるほどに冷静に対処するのも、

→すべてはキリストの愛のゆえ

- すべての信仰者は、死んで新生している。古い私は、主イエスの十字架で死んだ。私は、すべてキリストの愛に所有されている。



【キリスト者の使命】 Ⅱコリ5:15

キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。

- 主イエスの十字架の死の目的は、信じた私たちが**主イエスのために生きる**こと。
 - ➔ 私のために死んで復活された主を伝える。福音宣教に命を注ぐ。



【肉には従わない】 II コリ5:16

ですから、私たちは今後、肉にしたがって*人を知ろうとはしません。かつては肉にしたがってキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

*福音を信じた瞬間に死んだはずの**肉**に従って

→自分の思い、感覚、感情…etc

■信仰者は、み言葉により聖霊の助けを得て、死んで新生した者としてキリストを知る。

→主イエスのみあとをたどる、
福音宣教に遣わされるただ中で!!



相変わらず肉に従っていたのが
コリントの信者

【新生した者として】 Ⅱコリ5:17

ですから*、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

*福音を信じて新生し、真実に主を知る者となったのだから。

■古い私は死んだ。私は新しくされた。

→そう宣言できる信仰生活を歩んでいるか。
相も変わらず、死んだはずの古い自分に引きずられてはいないか。

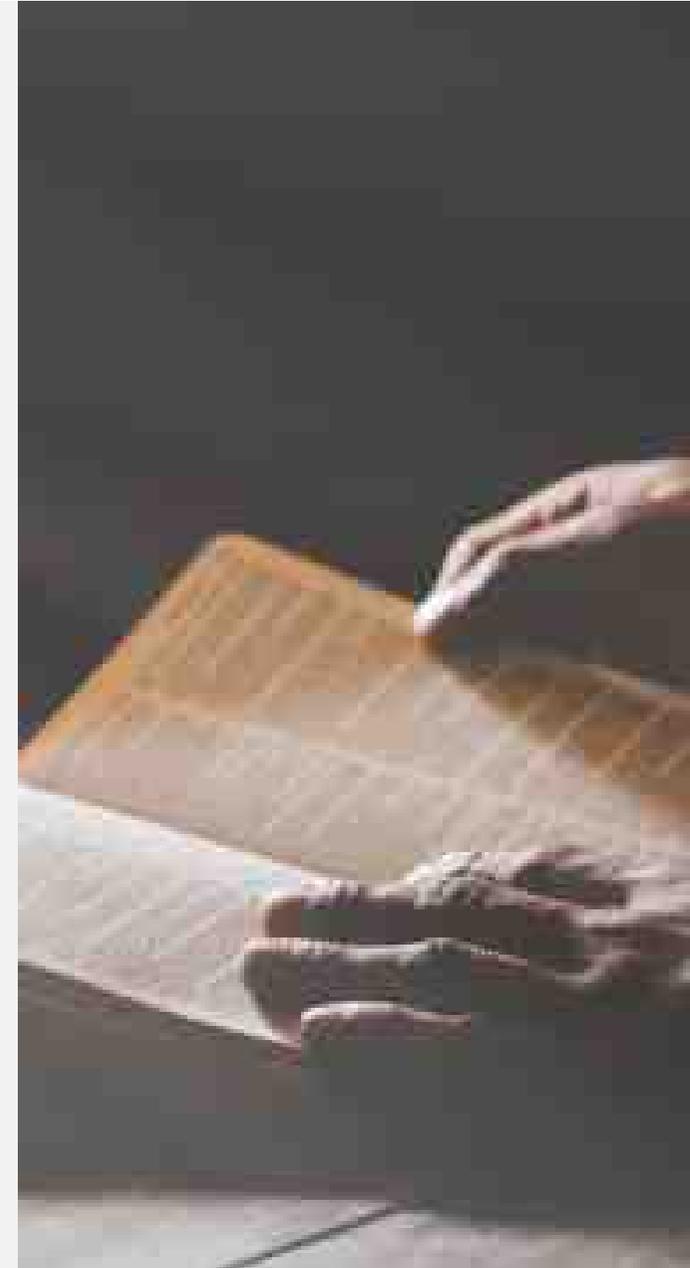


【和解の務め】 Ⅱコリ5:18～19

これらのことはすべて、神から出ています。神は、キリストによって私たちをご自分と**和解***させ、また、**和解**の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と**和解**させ、背きの責任を人々に負わせず、**和解のことば***を私たちに委ねられました。

*神との和解 = 神の怒りからの救い。

*福音。福音を伝え、み言葉を解き明かすのが
信仰者に与えられた和解の務め。



【神と和解せよ】 II コリ 5:20

こういうわけで*、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい*。

* 新生の原則を確認した、一連の記事は、パウロの使徒性を疑う人々への弁明だった。

* 後退した信仰者、信仰の幼子は、未信者と区別がつかない。

■ 信じていない人は信じること。信じた人はさらに信頼を深めることが求められている。



神との平和を
日々深めているか？

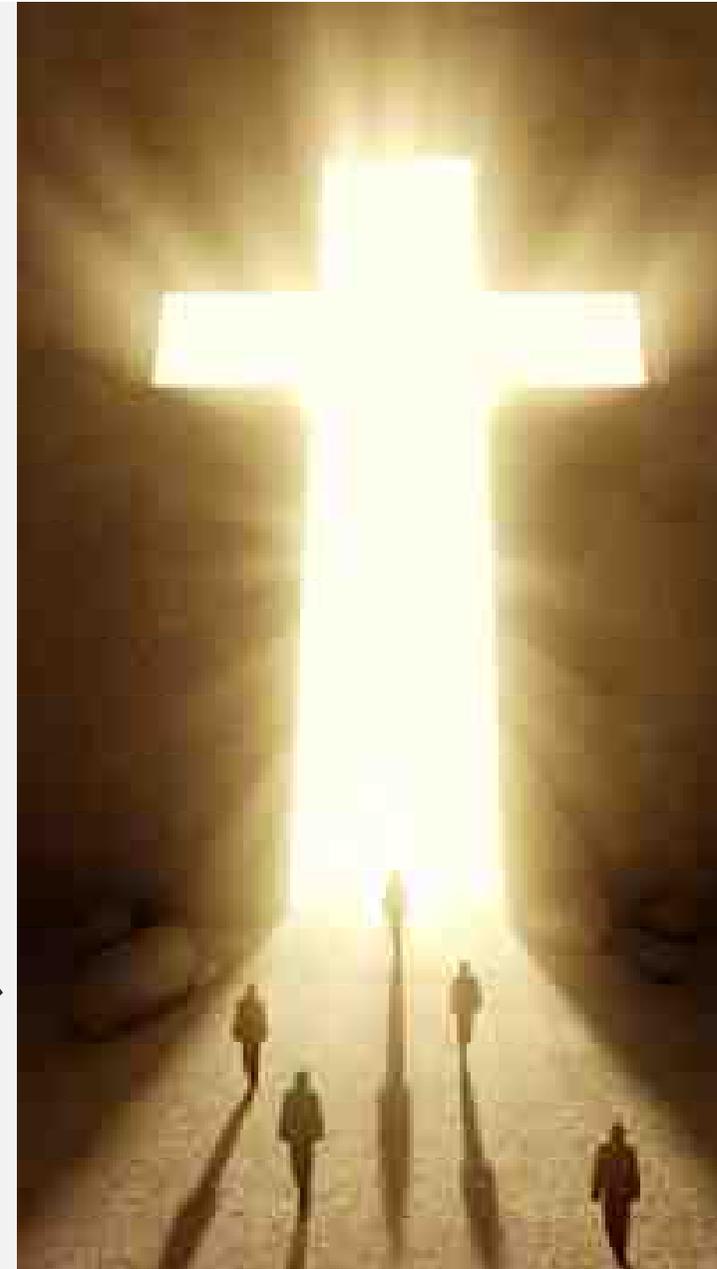
【再度提示される福音】 II コリ 5:21

神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。

■ 何度も何度も確認される救いの原則

罪なき主イエスが十字架にかかられたのは、私の罪を贖い、義と定めるため。

■ 死に勝利され、復活された栄光の主イエスは、信頼した者に、御国での永遠の栄光の体を約束してくださる。





IV. まとめと適用

死んだ者として新しい命を生きる

パウロの手紙を学ぶ上での原則を再確認

- 使徒パウロの教えは、他の使徒たちと完全に一致している。
主イエスの御言葉を基礎に、堅固に築かれた土台となっている。
- 救いと信仰の原則から、パウロは一步も踏み出すことはない。
→ 混乱してしまうのは、私たちの理解と確信が浅いから。
曲解するのは、神からではないものに従ってしまっているから。
- 代名詞や指示語が多い → 常に、前後の文脈の確認が必要
→ 文脈を無視した勝手な引用や解釈を許さない構成になっている!!

文脈に沿って丁寧に、信頼して読めば、必ず理解できるのがパウロの手紙

新生と復活の体について確認しよう

- 福音を信じた瞬間、私たちは新生している。
古い私は死んだ。キリストの命に呑み込まれた。
→私は、キリストの新しい命を生きている。

- 主イエスのもとに携挙された瞬間、復活の栄光の体を与えられる。
主が建てられた神の国で、永遠の命を生きる。
→信じた者の内に住まわれた聖霊によって保証されている。

肉体と栄光とのはざままで

- 一方で、肉体は離れたままで、滅びゆくもの。
→ このギャップが、私たちが悩ませている。
- 私たちには、信仰の成長が求められている。
→ 使徒たちが第一とするのは、み言葉の解き明かし。
聖書の学びが、まず必要不可欠。
- そして、私のために死なれた主イエスの道を歩むこと。
→ 福音を告げ、証していく。
私の命をささげるほどに、主の命に満たされていく。

幼子クリスチャンに
信仰の成長を促すのが
「コリントの手紙」

信仰の成長には痛みが伴うと覚えよう

- 気づかなかった罪が、目の前にあらわにされる瞬間がある。時に、互いに戒めあう関係を、主にある兄弟姉妹は求められている。
- 確信を突くことほど、拒んで逃れようとするのが私たち。指摘され、気づかされた瞬間が、何より信仰が問われる時だ。
- 向き合えば打ち砕かれる。その時こそ、聖霊が働いてくださる。キリスト者に求められるのは、いつでも打ち砕かれる覚悟。本物の謙遜を身に着けて、主に確かに育まれていこう。

死んだ自分の断片を手放し続け、真実の自由を手にしていこう

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために十字架で^{じゅうじか し}死に、

②^{はか ほうむ}墓に葬られ、

③^{みっかめ ふっかつ}三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

この^{ほろ}肉体が滅んでも、^{はだか}私たちは裸のままではいません。

^{えいこう}復活の栄光の体が与えられることを、^{ほしょう}聖霊が保証されています。

すでに死んだこの肉体から、私の^{かいほう}心を解放してください。

^{たお}私のために死なれた主イエスの福音を^つ告げ知らせます。

どうか、^{つか}聖霊の助けのうちに、ここから遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」